

中小規模施設の省エネ取組について

～カーディーラー店舗の省エネ導入事例～

エナジーセーブ株式会社

国内クレジット制度にむけて

国内クレジット制度の普及

→ 中小規模施設の省エネ活性化が鍵



中小規模施設の省エネ普及の障害

- ・規模の点より設備効率や人件費効率が低い
- ・常時稼働負荷がない場合は更に困難



規模や効率が低い部分を施設数で補完

→小規模多店舗展開業種を対象とした展開で活路開拓

中小規模多店舗展開業種への取組の条件

- 非生鮮系流通業の設備改善取組が可能であること
 - 生鮮系(SM、コンビニ、ドラッグストア等々)はより容易
- 特定の機器や手法に依存しない方法論を構築すること
 - 個別手法は上市されている手法を適用可
- ハイリターンよりローリスクを第一義とする
 - 複数手法×多店舗対応でリスクを分散化



管理手法の合理化努力の積み上げによる方法論構築

管理手法の合理化

省エネDBの活用

- ① 事前に正確な効果を予測可
- ② 事故を未然に防止可
- ③ 不採算施設の取組回避

標準化・パッケージ化

- ① 現地調査・見積・施工などの作業を標準化
- ② 手法別パッケージ取組
ex) 照明器具一台あたり
削減効果・材料費・工費
保守費などを算出

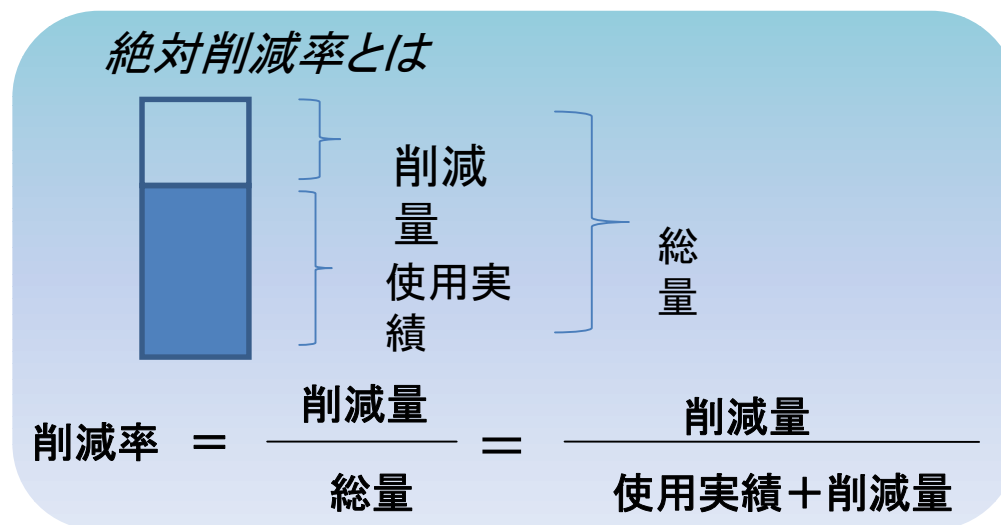
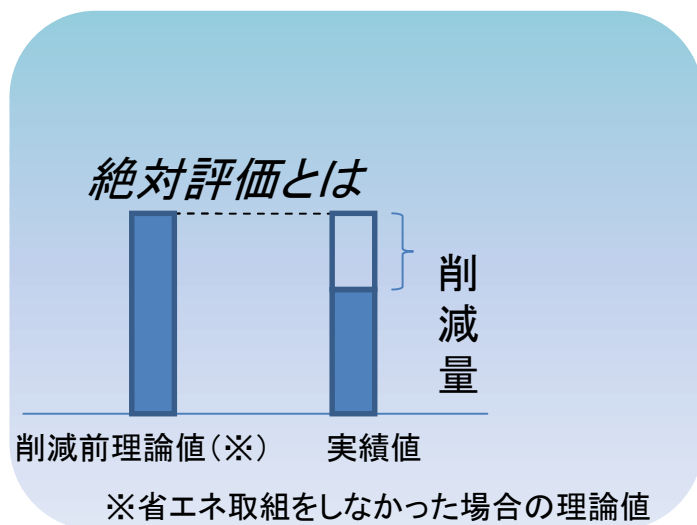
絶対評価法

- ① 相対法での問題点を解決
(次頁参照)
- ② 事業としての収益安定化

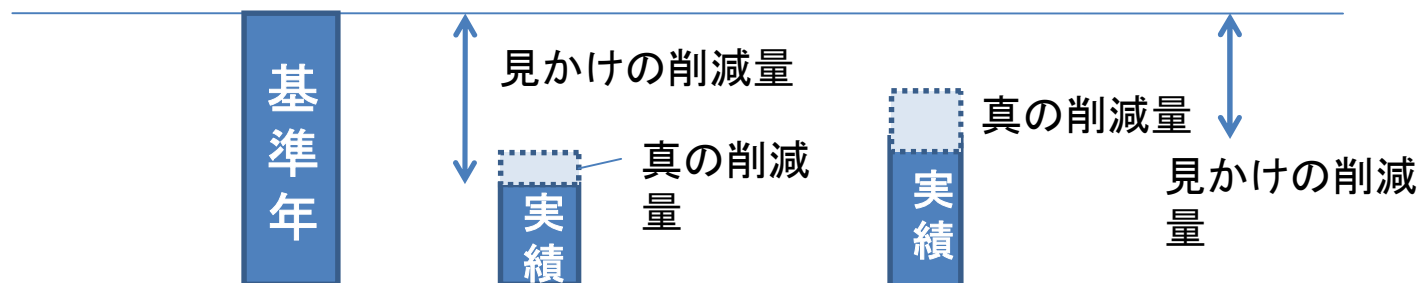
群管理手法

- ① 一元管理による
実績データ収集、故障監視
- ② 原単位比較による
運用合理化

絶対効果検証法



相対評価と絶対評価について



相対評価(基準年方式): 使用量少 → 見かけ削減量大 ⇔ 真の削減量は小
使用量大 → 見かけ削減量小 ⇔ 真の削減量は大

相対検証では現実の削減量を反映しない場合あり

具体的省エネ手法

電圧安定化



不安定な入力電圧を安定化・適正化させ、過剰電圧をカット。過剰電圧による電力ロス、電気器具への負担、電力料金の過払いを防ぐ

照明Hfインバータ化



照明をHFインバータ化し、従来型の照明器具に比べ消費電力を削減するだけでなく、照度もアップする

空調運転制御



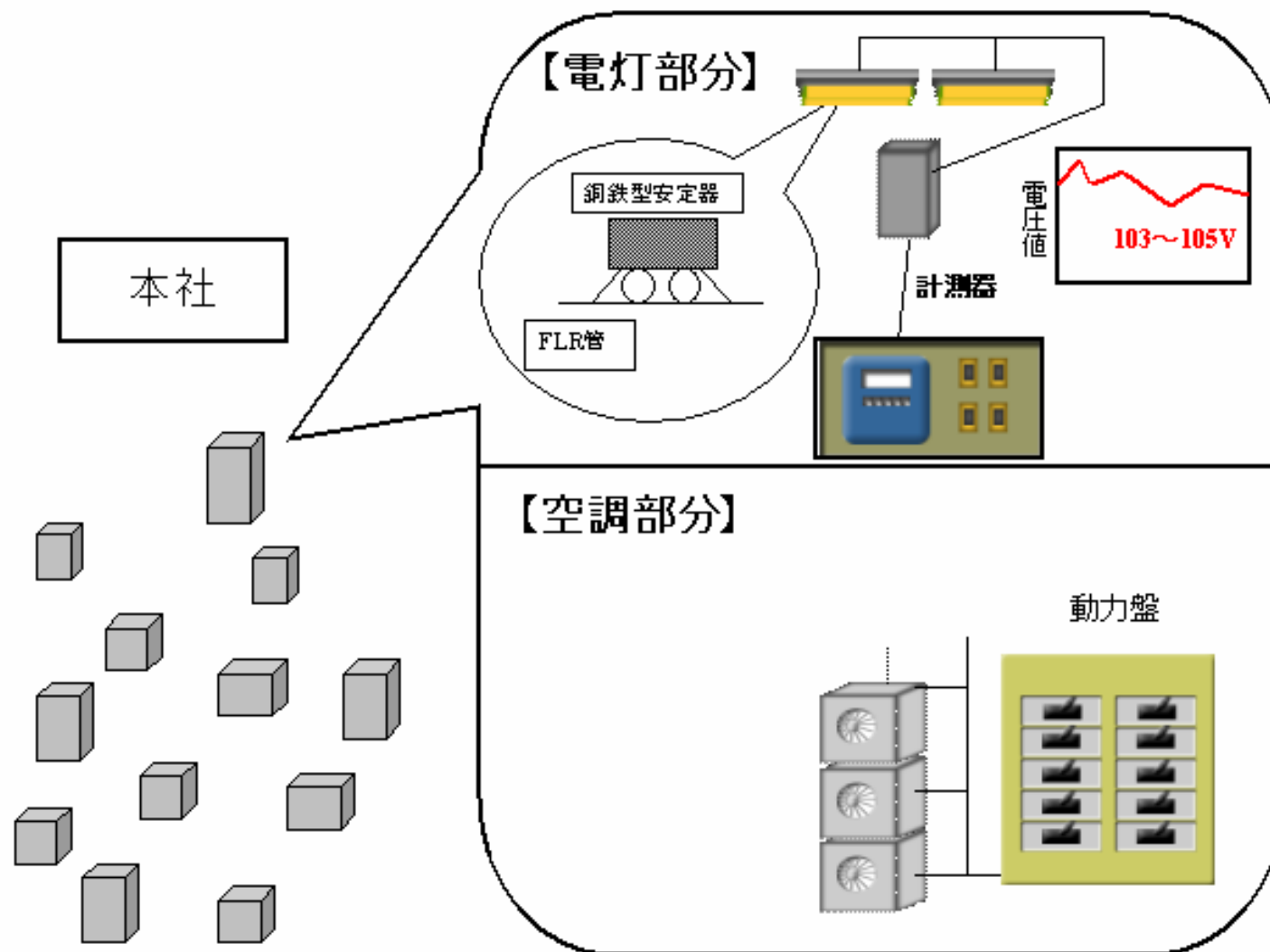
現状の快適度維持を前提に、過剰運転していれば室外機にデマンドコントローラーを設置し、間欠運転させ、消費電力を削減する

(事例) カーディーラー店舗への導入

(導入内容)

- 対象施設 : 名古屋トヨペット(株)
- 対象施設数 : 96店舗(導入対象:71店舗)
- 稼働時間 : 午前9:00時 ~ 午後8:00時 (11時間)
- 稼働日数 : 年間約300日
- 契約形態 : シェアド方式ESCO契約
- 契約期間 : 10年 + 更新
- 導入手法 : 照明高効率化、空調運転制御、電圧適正化 等

省エネ体制導入前



省エネ体制導入後

